

看護学研究科 三つのポリシー

アドミッションポリシー

1. 人間に対する深い関心と生命倫理や医療倫理を身につけている人
2. 専攻分野における基礎知識を身につけている人
3. 自ら進んで課題に取り組む意欲と探究心がある人
4. 看護学の教育、研究、実践の分野で地域社会に貢献する意志があり、看護学関連分野を学習してきた人

カリキュラムポリシー

1. 教育理念・目的に基づき、豊かな感性、人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化、専門分化および多様化していく医療に要求される知識や技術を的確に習得、発展させながら、実践科学としての看護学を探究する高度な実践能力と基礎的な研究能力を育成するために必要なカリキュラムを配置する。
2. 看護学コースと助産学実践コースを置き、すべての学生が幅広く専門知識を修得するために共通科目を配置する。看護学コースでは各専門分野に必要な能力を養成するために、特論、演習、特別研究の授業科目を配置する。さらに助産学実践コースでは助産師となるために必要な特論、演習、実習科目を配置する。

ディプロマポリシー

本大学院に2年以上（優れた研究業績を上げた者については1年以上）在学し、授業科目について、看護学コースのうち、論文コースにあっては30単位以上修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格することが、高度実践コースの高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）にあっては40単位以上、同コースの周産期看護師教育課程にあっては46単位以上修得し、かつ、特定の課題についての研究の成果（以下、「課題研究成果物」という。）の審査及び最終試験に合格することが、助産学実践コースにあっては、58単位以上修得し、かつ、課題研究成果物の審査及び最終試験に合格することが、課程の修了と学位授与の必要条件である。修了時には以下の能力が求められる。

1. 看護学に関する確かな専門知識と深い学識を修得している。
2. 生命科学、社会科学、情報科学などの知識を活用して研究能力が発揮できる。
3. 看護専門職者（論文コース修了者）として、地域医療での指導能力を発揮できる。
4. 看護専門職者（高度実践コース修了者）として、高度な実践能力と指導能力を発揮できる。
5. 看護専門職者（助産学実践コース修了者）として、地域における周産期医療での指導能力と高度な実践能力を発揮できる。